

令和6年度 人権学習充実拠点校事業

研究発表資料

子どもと自然をつなぐ人権教育 ～いのちと出会い育つ心～



美作市立むさしこども園



研究の概要

1 研究主題

子どもと自然をつなぐ人権教育 ～いのちと出会い育つ心～

2 主題設定の理由

むさしこども園の園目標

「ぐんぐん伸ばせ 学びの芽 人と自然とつながり育つむさしっこ」

むさしこども園にとって人[▽]と自然[▽]は重要なキーワードである。



人

こども園の生活では、様々な人と出会い、心揺さぶられる体験をたくさんする。むさしこども園では、多様な人とのつながりを通して、友達と共に遊ぶ楽しさや、新しい発見から得る感動、時には友達と考えが合わないことによって感じる悔しさや悲しさなど様々な感情体験を重ねていく。その中で、自己表現や他者理解を深めていくことを目指している。

また、大原中学校区（むさしこども園・大原小学校・大原中学校）では、自己肯定感を育む教育を重要視しており、子どもたちが友達の気持ちを受け入れたり、そのよさに気付いたりすることを大切にしている。こうした取組を通じて、思いやりの気持ちを育み、自信をもって成長していくのではないかと考えている。

一方で、思いやりの気持ちを育む中で、保育者それぞれの思いが先行しがちであり、園全体で子どもの成長を支えていくための視点の曖昧さも感じている。むさしこども園のよさを生かしながら、思いやりの気持ちを育てていきたいと考えている。



自 然

幼児期の教育は「環境を通した教育」である。身近な環境すべてが子どもにとって学びの場である。特に自然は、「心の安らぎ」「豊かな感情」「好奇心」「思考力」「親しみや畏敬の念」「生命を大切にする気持ち」など様々な実体験により、子どもたちの感性を豊かにしてくれる。

むさしこども園は新設4年目である。新設直後は園内に自然を感じられる環境があまりにも少なく、子どもたちが自然に触れて遊ぶ姿はほとんど見られなかった。

私たちは、子どもたちに自然を通して様々な体験や経験をして欲しいと願い、子どもたちや保護者、地域の方々とともに、4年かけて現在のような自然あふれる環境をつくり上げてきた。すると、自然物（植物、生き物、無機物）、自然環境（森、川）、自然事象（気象、現象）との出会いが身近になってきた。子どもたちは、自然を感じ、自然に触れ、体験する姿が多くなり、むさしこども園のよさにつながっていった。

同時に、子どもたちが心動かされたり、学びの芽につながったりする出来事には自然を通したものが多くなってきた。最近では、自然と十分に親しむことで、自然を大切にしようとする気持ちが育ち、「いのち」について考えようとする姿が増えてきている。これは、自然環境が充実してきたからこそ、育むことができるようになった姿（動植物への温かな感情の芽生え）である。

このように、自然は園目標を達成する上でも大切であると考えている。



むさしこども園のよさである自然を通して、動植物への温かい感情や人への思いやりの気持ちを育んでいきたいと考える。

3 子どもと自然をつなぐ人権教育とは

3つの柱から育ちを支える

じぶん



自分のことが大好きな
子どもを育てる

ともだち



互いのよさを認め合える
子どもを育てる

しぜん



いのちを大切にしようと
する心を育てる

就学前における人権教育8つの視点の中で特に関わりの深い項目



思いやりのある気持ちで人と接し、自分も相手も異なる考えや感情を持った存在であるとともに、互いにか
けがえのない存在であることを実感できる取組。



自然や身近な動植物に親しみを持って接し、生命の尊さに気づき、いたわり、大切にしようとする気持ちを
育てる取組。

(第4次岡山県人権教育推進プラン)

子どもと自然をつなぐとは

「子どもと自然をつなぐ人権教育 ～いのちと出会い育つ心～」

↳ **自然との対話を楽しむ姿** と捉える。

自然との対話を楽しむ姿とは

- 自然との出会いを通して、様々な感情体験をしたり、動植物の気持ちを想像したり、感じたことや考えたこ
とを言葉や態度で伝えようとする姿である。
- 自然に繰り返し関わりながら、自然を取り入れて遊ぶ姿も自然との対話を楽しむ姿である。
- 自然と出会い、大切にしようとする体験や対話を重ねることで、友達や周りの人たちに対する思いやりの
気持ちも育まれると考える。このように、自然との対話を通して友達や周りの人となつながら、思いやりの気
持ちをもつことも自然との対話を楽しむ姿である。

自然との対話を楽しむために

自己肯定感を育む中で、温かな感情の芽生えや思いやりの気持ちを培うことが大切である。

自己肯定感を育む

周囲の人から愛され、受け入れられ、認められていることを実感すること。

さらに、いのちに出会う体験や様々な感情体験を継続的に重ね、他者のいのちをいとおしく思って大切にしようとする保育者や友達にたくさん出会い、自分自身も大切にしてもらう体験のこと。



温かな感情の芽生え

身近な動植物に親しむ中で、可愛がったり、いたわったり、大切に世話したいと思ったりすること。

また、動植物の気持ちを想像したり、いのちの素晴らしさや尊さを保育者や友達と共感したりすること。



思いやりの気持ち

相手のことを想像し、感じとったり、考えたり、行動に移したりすること。また、ただ想像するのではなく、相手の気持ちを考えようとしたり、自分とは異なる思いをもっていることに気付いたりすることも大切であると考ええる。

そして、自分の気持ちを素直に表現するためには、心理的安全性の確保された学級づくりや友達や保育者との温かで良好な人間関係づくりが土台となると考える。



4 主題に迫るための具体的な取組

(1) 人権教育全体構想図・年間指導計画の見直し

見直しのポイント

構 想 図 *資料1

- ① 「じぶん」「ともだち」「しぜん」と育ちを支えていきたい視点をキーワード化する。

キーワード化した理由

- 誰もが理解しやすく、覚えやすくなる。
- 取組の方向性が明確になる。

- ② 「じぶん」「ともだち」「しぜん」の視点で育てていきたい姿を具体化する。

年 間 指 導 計 画 *資料2

- ① 0歳～5歳までつながりをもたせる。
- ② 「じぶん」「ともだち」「しぜん」の視点で計画を立てる。
- ③ 自己肯定感を育む中で、温かな感情の芽生えや思いやりの気持ちを培うことができるような内容にする。

(2) 主題につながるエピソード記録や振り返りの共有 (月1事例)

資料3参照

取 組 の ポ イ ン ト

- エピソードは、自然との対話を楽しむ姿を記録する。
- エピソードの考察は「自己肯定感を育む」「温かな感情の芽生え」「思いやりの気持ち」の視点で記述する。
- 職員同士で、短時間でわずかな時間を有効に活用し、エピソード記録や振り返りについて語り合い、シェアしていく。

(3) 自然と出会い、いのちを大切にしようとする環境づくり

4年かけて現在のような自然あふれる環境をつくり上げ、自然との出会いが身近となった。現在の環境をむしろこども園の強みとして残しつつ、子ども達がもっと身近に自然(いのち)を感じ、より深く自然を感じることができるようにブラッシュアップしていく。



生き物に関わりやすい保育室の環境構成

生き物を好きな時に見ることができる場所(保育室の中央)に。また、様々な生き物に関心を寄せ、親しみの気持ちが育まれるような環境の工夫。季節や興味関心に合わせて環境は再構成していく。



子どもたちと保護者と一緒につくる園庭

子どもたちと一緒に畑を作ったり、栽培物の世話をしたりする。“関わる”ことで自然との出会いや大切にしようとする気持ちを育む。また、保護者の方とも一緒にすることで園への愛着にもつなげていきたい。

3歳以上児

1年を通して、愛着をもって生き物に関わり続ける経験を積み重ねるため、3歳児カメ、4歳児メダカと金魚、5歳児うさぎと飼育を分担していく。

また、3、4歳児は経験豊富な5歳児に教わることで、子どもから子どもへいのちの大切さをつなげていく。



(4) 温かで良好な人間関係づくりの工夫



いつでも、誰とでもつながる環境づくり

いつでも、誰とでも関われる環境を目指す。そのために、職員が他クラスにも高い関心をもつ。また、つながるきっかけとなるように、異年齢児活動(おさしっこタイム)を取り入れるなど活動の工夫もしていく。



保育者自身の“ちょっとした心の余裕づくり”

「ほっこりカード」を使って職員同士で素敵だと感じたことをカードに書いて伝え合う。保育者自身の自己肯定感の高まりやチーム力の向上を目指す。また、“ちょっと聞いて!”といつでも子どもの成長や様子を語り合う習慣や雰囲気をつくる。

5 まとめと今後の課題

○人権教育全体構想図を見直し、むさしこども園で大切にしていきたい3つの柱を定めたことで、全職員でベクトルを合わせて実践することができた。

○年間計画の見直しをしたことで、3つの柱（「じぶん」「ともだち」「しぜん」）をベースとした0歳～5歳までのつながりをもたせた保育のねらいを可視化することができた。さらに、指導計画（個人記録や月週案）に取り入れ、振り返りを「自己肯定感」「温かな感情の芽生え」「思いやりの気持ち」の視点で捉えるようになり、日々の保育の方向性が確認でき、質的充実を図ることができた。

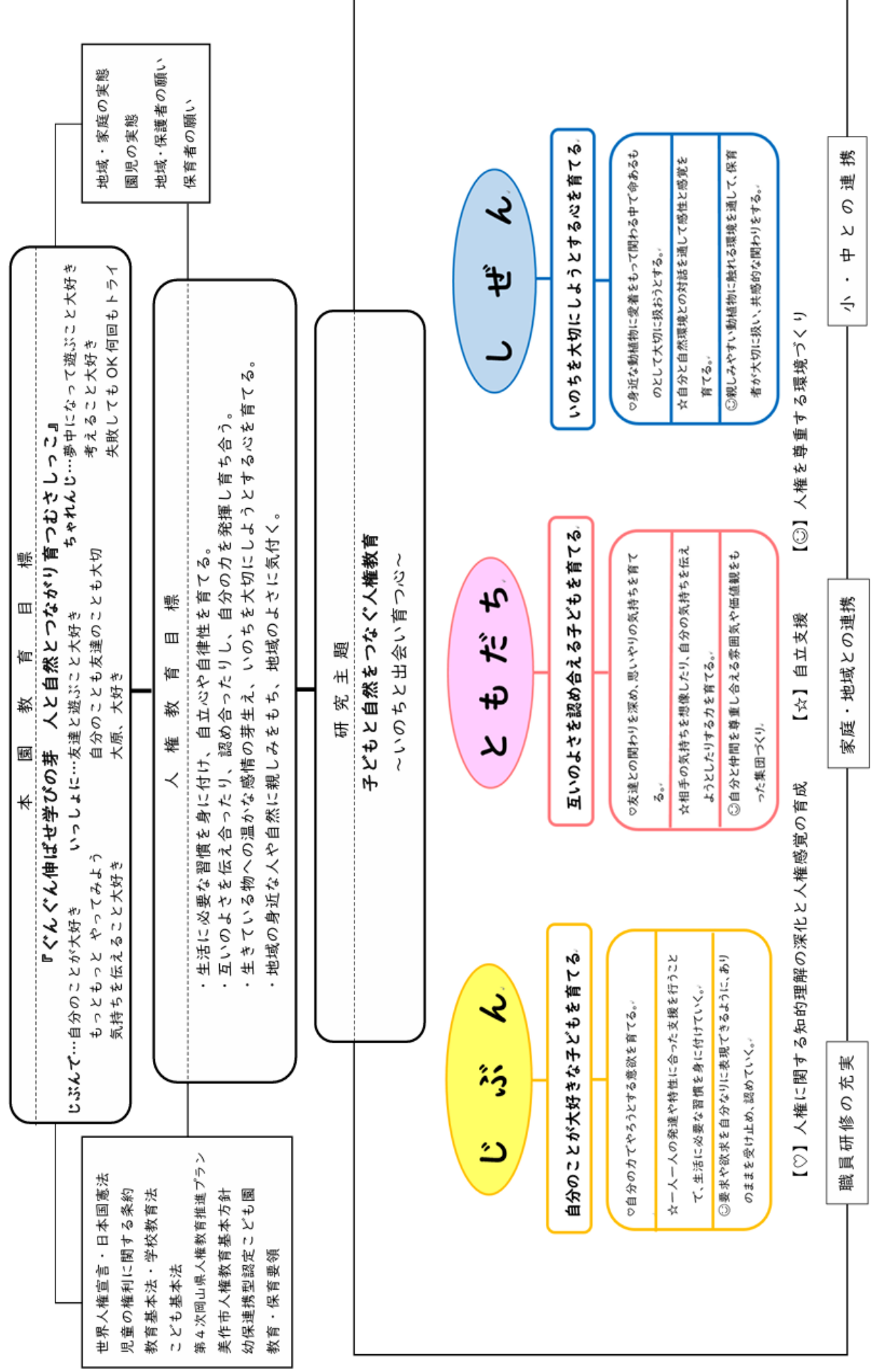
○エピソード記録を複数の職員で見合い、意見交流をする場を継続的に設けてきた。エピソードの場面設定、内容、考察を充実させることで、日々の保育が変わってきた。変化を実感しているからこそもっと学びたい、向上したいという意欲が高まっている。今後は、「いのち」についてのエピソードの中から、「思わず誰かに伝えている場面」「いのちの誕生、終わりに出会った場面」など場면을絞り込んで捉えていきたい。そうすることで、子どもたちの成長や心の動きをより深く、具体的に理解していくことができるのではないかと考えている。考察については、それぞれの保育者により、考察の仕方に個人差があると実感している。継続して記録や考察をしていきながら、他の保育者との研修を積み重ね、多様な価値観を受け入れ、記録の質を上げ、学び続ける保育者を目指していきたい。

○いつでもどこでもいのちに触れることができる環境をつくっていくことで、子どもたちがいのちに出会い、関わる体験を積み重ねることができている。その中で、子どもたちが友達と発見を共有し、感情を通して学ぶ場面が増え、小さいいのちにも真剣に向き合う姿や友達のよさに気づき、思いやりの気持ちをもって関わる姿が増えてきた。

○いつでも、誰とでもつながることのできる環境は、誰がどのクラスで過ごし、遊んでもいいということである。保育者の温かい受け入れや連携により、その環境が当たり前になりつつある。園全体が温かい雰囲気にもまれることで、子どもたちが安定して過ごすことができ、自己肯定感の高まりにもつながっている。また、様々な人と関わることで、多様な価値観に触れたり思いやりの気持ちをもったりする姿が見られている。この環境を継続していくことで、お互いに大切にし合える関係が受け継がれていくのではないかと考える。

○保育者同士の安心感のある人間関係が大切であることを実感した。何でも話し合える人間関係が人的環境の充実につながることを意識して実践を積み重ねたい。さらに、保育者の人権意識の向上に向けて努力していきたいと考える。一人一人の良さや特徴を大切にしたい幼児教育は人権教育そのものであると実感している。





令和6年度 人権教育年間指導計画(0～5歳のつながり)

「自己肯定感の高まり」「温かな感情の芽生え」「思いやりの気持ち」の視点に係る項目一部抜粋

	0・1歳児	2歳児
じぶん	【○ねらい・内容】 ○ありのままの姿を受け止めてもらい、安心して生活を送る。 ・生活や遊びの中で自分の欲求や思いを簡単な言葉や仕草で伝え、思いを受け止めてもらう喜びを味わい、安心感をもって生活する。 (0歳児) ・愛情豊かな関わりの中で、生理的・心理的欲求が満たされ、生活リズムを整えてもらうことで、心地良さを味わいながら生活する。 (1歳児) ・生活に必要な身の回りのことに興味をもち、保育者に手伝ってもらったり、温かく見守られたりしながら、少しずつ自分でしてみようとする。 【大切にしたい関わり】 ○一人一人の気持ちを尊重することで、子どもとの信頼関係を築き、家庭的な雰囲気の中で温かく見守ったり、受容的・応答的な関わりをしたりする。 ○ゆるやかな担当制を取り入れ、一人一人の子どもの生活のペースに合わせて保育者の動きや環境を整える。特定の保育者がそれぞれの発達に合わせて、丁寧に援助を行うことで、一人一人の子どもが安心して生活できるようにする。	【○ねらい・内容】 ○一人一人が受容的・応答的な関わりの中で、愛されていることを実感し、安心感をもって過ごす。 ・生活や遊びの中で、自分の思いを言葉で伝え、ありのままを認められる経験を積み重ねていくことで、受け止められる安心を感じて生活する。 ・食事・排泄・着脱など、生活に必要な習慣に気づき、自分でできた時の達成感や心地よさを味わう。 【大切にしたい関わり】 ○自我の芽生えに伴う不安定な感情の表出にも十分に時間をかけ、受容的に受け止め、ありのままの姿を肯定していく。 ○保育者間で子どもの成長や発達、遊びの様子を共有し、同じ援助をすることで、安心して生活できるようにする。 ○難しいことは子どもの意向を聞きながら援助したり、温かな視線を送りながら、さりげなく傍で見守ったりすることで、自分でできた心地よさや経験を積み重ね、主体的に生活しようとする意欲を高めていく。
ともだち	【○ねらい・内容】 ○保育者や友達と一緒に過ごす心地良さを味わう。 ・保育者に見守られる中で、自分の気持ちを素直に表現し、受け止めてもらう心地良さを味わう。 ・保育者を仲立ちとし、簡単なやり取りをしながら、友達と一緒に過ごす心地良さを味わう。 ○身の回りにいる様々な人に興味や関心をもつ。 ・身の回りにいる様々な人の存在に気づき、関わろうとする。 【大切にしたい関わり】 ○一人一人の子どもをしっかり見守り、子どもたちが表出する表情や仕草、言葉などから子どもの気持ちを汲み取る。遊びや生活の中で、一人一人が十分に自己表現できるようにし、言葉にならない思いを受容的に受け止め、安心して生活できるようにする。 ○保育者との温かい関係のもと、同じ玩具を複数用意したり、スペースを確保したりすることで、ゆったりと一人遊びを楽しめるようにする。安心して一人遊びを楽しむ姿や、周りで遊んでいる友達の存在に気づき、友達の仕草や行動を真似して遊ぶ姿、友達とのやり取りを楽しむ姿を大切にする。 ○異年齢児や保育者等、身の回りにいる様々な人に興味や関心をもてるよう、異年齢児の活動を見に行ったり、一緒に遊んだりする中で、楽しさを味わったり、親しみをもてるようにしたりする。	【○ねらい・内容】 ○身近な人と親しみ、関わりを広げ、共に過ごす喜びを感じる。 ・保育者や友達に思いを受け止めてもらい、仲立ちされながら自分と友達の思いを知る。 ・保育者や友達と同じ場で遊びを楽しむ中で、自ら関わることを楽しむ。 ・安心して保育者の仲立ちのもと、自分の気持ちや思いを相手に伝えようとする。 ・保育者や異年齢児・地域の人などに興味をもって関わろうとする。 【大切にしたい関わり】 ○保育者との温かな関係のもと、一人一人の子どもの思いをしっかりと認め、受け止めた上でお互いの気持ちを伝え合えるよう仲立ちする。そうする中で、友達と一緒にいることの楽しさを感じられるようにする。 ○保育者も一緒に遊んだり、時には子ども同士の関わりを見守ったりすることで、友達とのやりとりや一緒に遊ぶことの楽しさを味わうことができるようにする。 ○保育者も子ども達の輪の中に入り、一緒になって遊び、楽しい・嬉しい・悲しいなどの感情を共有する。こうした感情のやりとりを通して、温かな関係を築くことができるようにする。 ○保育者が子どもの気持ちや思いなどを言葉にして、お互いに伝えることで、自分の思いを受け止めてもらい、相手にも思いがあることを受け止める経験を積み重ねることができるようにする。 ○保育者が親しみをもって挨拶したり、話しかけたりすることで、異年齢児や地域の人などに興味を向けられるようにする。
しぜん	【○ねらい・内容】 ○身近な自然や生き物に興味をもつ。 ・園内外にいる様々な生き物と出会い、見たい触れたいという欲求をもつ。 ・保育者と一緒に動植物を見つけ、見たり聞いたり触れたりすることで、感覚を豊かにする。 ・身近な自然の中で探索活動を楽しむ中で、発見したことや驚いたことを保育者と共有しようとする。 【大切にしたい関わり】 ○子どもが思わず触ってみたくなるような自然環境を整えたり、興味をもっている生き物に関する教材を準備したりすることで、自然をより身近に感じることができるようにする。 ○園庭を散策したり、園外へ散歩に出たりすることで、新鮮な外気や太陽の光、風を感じたり、植物や小動物など四季折々の身近な自然と関わり、心動かす体験を多くもてるようにする。 ○繰り返し探索を楽しみ、子どもが興味をもったものに自ら向かう中で、まなざしや指差し、喃語に受容的・共感的に関わったり、見出したことや感じ取ったことに寄り添った言葉を掛けたりする。 ○保育者がモデルになって大切に扱ったり、優しく接したりすることで、動植物に親しみをもてるようにする。	【○ねらい・内容】 ○興味のある動植物に親しみ、自分なりに可愛がる。 ・保育者と一緒に動植物の世話をしたり、自ら見たり触れたりする。 ・手触り・重さ・大きさ・におい・動き・鳴き声など様々な感覚を直接的に体験する。 ○安心して関係や環境の中で、好奇心をもって身近な自然に関わる楽しさを味わう。 ・身近な自然に興味をもち、見る・聞く・触れる・嗅ぐ・味わうなど様々な感覚を働かせながら関わり、感じたことを共有する。 ・地域に出かけ、自然に触れることを喜ぶ。 【大切にしたい関わり】 ○飼育を通して、子ども達が発見したことや不思議に感じたことなど、素直な感じ取り方を肯定的に受け取ったり、共にやりとりを楽しんだりして、自由な感性を大切にする。 ○保育者がモデルになって可愛がったり、いたわったり、大切に世話をしたりするなどして、動植物を大切に扱う姿を伝える。 ○子どもの発見やつぶやき、心が揺れ動いた時を見逃さずに、保育者も一緒に共感する。 ○身近な地域の自然に触れる機会をつくることで、自然を身近に感じ、親しむことができるようにする。

	3歳児	4歳児	5歳児
じぶん	【 ○ねらい ・内容 】 ○一人一人が気持ちや行動を受け止められ、認めてもらいながら、保育者と信頼関係を育み、安心感をもって過ごす。 ・保育者との信頼関係の中で自分の考えを安心して表す。 ・こども園には自分の思いを受け止めてくれる人、困ったときには一緒にいてくれる人がいることを感じ、安心して過ごす。 ○「やってみたいこと」や「できること」に自分なりに取り組む嬉しさや満足感を味わう。 ・自分で気付いたこと、やってみたいことに自ら関わる。 ・自ら取り組んだことを保育者や友達と喜び合ったり、認め合ったりする。 【大切にしたい関わり】 ○様々な気持ちや行動を肯定的に受け止め、共感したり一緒に取り組んだりしながら情緒の安定を図り、一人一人との信頼関係を築く。 ○生活や遊びの中で子どもが自分でやってみようと感じている時には、さりげなく傍にいたり、困った時に助けを求めたりすることができるようにする。	【 ○ねらい ・内容 】 ○一人一人が自分の思いや考えを大切にもらえる、自分は愛されているという安心感のもと、自己の存在感や充実感を味わう。 ・ありのままの自分を受け止めてもらえる安心感のもと自分の思いを表出しようとする。 ○遊びや生活を通して様々な体験をしながら自信をもち、喜びや充実感を味わう。 ・興味・関心をもったことに自分なりの方法で取り組み、成功や失敗を経験しながら達成する喜びを感じる。 ・他者への憧れの気持ちをもちながら、活動を広げていく。 【大切にしたい関わり】 ○一人一人の思いや考えをありのままに丸ごと受け止め共感することで、自分が大切にされていることを実感できるようにする。 ○異年齢児と触れ合う中で自分の成長を実感したり、「自分で考え自分でできた」という自信から次への期待につなげたりする。	【 ○ねらい ・内容 】 ○ありのままの自分を受け入れられ、周囲の人から愛され、認められていることを実感し、自己発揮しながら過ごす。 ・自分の居場所を見つけ、安心感をもってやりたいことに取り組む。 ・自分の得意な事や苦手なことが分かり、自分らしさを発揮し、生き生きと活動する。 ○園のリーダーとして自信をもちながら、生活を進めたり、つくりだしたりし、充実感を味わう。 ・課題や見通しをもちながら環境に関わり、活動を生み出すことの楽しさや、充実感・満足感を味わう。 ・他者から頼りにされたり、感謝されたりすることで、自分の存在意義を感じる。 【大切にしたい関わり】 ○行動や思いをありのまま受け止め、委ねたり任せたりし、心の動きに寄り添いながら、期待をもって見守ることで、自己発揮できるようにする。 ○園の行事や異年齢交流で活躍する機会を通してかけがえのない存在であることに気付かせたり、自分を大切にしたりしようとする気持ちを育てるようにする。
ともだち	【 ○ねらい ・内容 】 ○友達の良さを感じ、一緒に過ごす楽しさを味わう。 ・自分の思いを出したり同じ場にいる友達と関わったりしながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・友達や保育者とやりとりをしたり、楽しさや驚きなどを共感したりしながら遊ぶ中で、友達にも思いがあることに気付く。 【大切にしたい関わり】 ○嬉しい、楽しい、悲しいなど友達と一緒に遊ぶ中で感情体験を大切に。温かい感情のやりとりを通して相手の気持ちにも心を向けることができるようにする。 ○嬉しいときに喜び合ったり、困ったときに助け合ったりしたいと思うことができる雰囲気作りや友達の様子に目を向けることができる環境や関わりをする。	【 ○ねらい ・内容 】 ○友達とイメージを共有しながら遊び、友達と一緒にだからこそ遊びが面白くなったり、深まったりしていく充実感を味わう。 ・友達と思いを出し合って遊びながら、よさに気付いたり、自分とは違う思いに触れたりする。 ・様々な出来事に共感したり共有したりしながら、協力して遊びや生活が広がっていく面白さを味わう。 【大切にしたい関わり】 ○発見や工夫を互いに面白がり認め合うことのできる関係作りを通して相手のよさに気付く、一緒に遊びを広げていく楽しさを味わえるようにする。 ○自分の思いと相手の思いとの狭間で葛藤する体験を尊重しながら、一人一人の気持ちを受け止め共感したり、友達の気持ちに気付くことができるように関わったりしながら心の揺れを見守る。	【 ○ねらい ・内容 】 ○互いのよさを認め合いながら、遊びや生活を進めていく充実感を味わう。 ・いざこざも経験しながら、それぞれの違いや多様性に気付く、折り合いをつけながら友達と様々な心動かす出来事を共有する。 ○友達と関わる中で、共通の目的に向けて、考えたり工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げようとする。 ・いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 【大切にしたい関わり】 ○振り返りの時間やクラス全体で集まる場で、話し合う時間をつくり、友達に自分の考えや体験を話したり、友達の話を聞くことで自分とは違った考えがあることに気付いたりできるようにする。 ○一人でできないことも力を合わせれば可能になるという気持ちが育つように、試行錯誤しながら実現しようとする過程を丁寧に捉えるようにする。
しぜん	【 ○ねらい ・内容 】 ○身近な自然に触れ、親しみをもって関わる楽しさを味わう。 ・園内外の動植物の感触や匂い、音、変化する様子などを感じたり、感じたことを友達や保育者と共感したり共有したりする。 ・興味をもったものを、進んで遊びに取り入れる。 ○身近な動植物に興味関心をもって関わり、自分なりに大切にしようとする。 ・園内で飼育しているカメやウサギなどに触れ、世話しようしたり、園庭に集まる虫を見つけ、友達や保育者と一緒に飼育したりする。 ・動植物への関わり方に意味をもたせたり、生き物の様子から気持ちを想像したりする。 【大切にしたい関わり】 ○子ども達が気付いたことを一緒に驚いたり、喜んだり、行動したりする。共感してくれる存在がいることで、子ども達が地域の自然や身近な自然に対してもっと親しみが湧いたり、大切にしたいと思ったりすることができるようにする。 ○生き物の気持ちを感じ取ろうとする姿勢や自分なりに大切にしようとする過程を認めていく。様々な思いや考え、関わり方があってよいということが、言葉や雰囲気や伝わるように関わる。	【 ○ねらい ・内容 】 ○身近な自然に対する興味・関心を広げ、想像を膨らませたり、感性を豊かにしたりする。 ・園内外の季節ならではの自然現象や変化に触れ、四季折々の自然に興味をもつ。 ・自然に触れ、その大きさ、不思議さや面白さなどに気付く、遊びに取り入れる。 ○身近な動植物に親しみをもって関わりながら、命の大切さに気付く丁寧な扱おうとする。 ・身近な動植物に親しみをもつ中で、命への関心を深め、関わり方を考えようとする。 ・命の誕生や終わり、生長、変化に触れ、生命の営みや不思議さを体験する。 【大切にしたい関わり】 ○宮本地域の良さでもある四季折々の豊かな自然に触れる中で見つけた、その子ならではの発見や驚きに保育者が共感することで、自然現象の面白さや地域の良さを感じるようになる。 ○動植物に触れる中で感じた不思議さや面白さなど、自分なりの言葉や感性で表現しようとする姿を受け止めることで、自然との対話を楽しむことができるようにする。	【 ○ねらい ・内容 】 ○身近な自然の四季折々の変化に気付く、関心や興味を寄せ、友達と共感する。 ・園内外の自然に興味をもち、実体験を通して心動かされた場面を表現したり、四季の移り変わりを感じたりする。 ・自然物の匂いや色、感触などの特性を知り、友達と面白さを伝え合ったり、工夫したりしながら遊びに取り入れる。 ○身近な動植物に愛着をもって関わり、命あるものに対して心を動かし、大切に扱おうとする中で命の尊さに気付く。 ・ウサギや見つけた虫の飼育や栽培を通し、世話をすることで、命の誕生や終わりに触れ、命あるものをいたわったり、大切にしたりする。 ・身近な動植物に積極的に関わり、気持ちを想像したり、いのちの尊さを友達と共感したりする。 【大切にしたい関わり】 ○子ども達の興味や関心の中で、「なんで?」「どうして?」を大切に、子ども達の世界観に身を置き一緒に、感動したり、考えたりする。 ○動植物と関わる中で、親しみや愛着といった子どもの心の動きを見つめ、ときには関わり方の失敗や間違いを乗り越えながら、命あるものをいたわり、大切にしようとする気持ちを育てるようになる。

3歳児 赤組 12名(男:8 女:4)

子どもの姿

○草花や石鹼を使ってジュースを作り、友達や保育者とやりとりを楽しむ。

園庭に咲くマリーゴールドやシソの葉・種などを使ってジュースを作り、匂いや色の濃さなどの違いや変化を楽しんでいる。また、石鹼を入れると色水が変化することが面白く、泡立ててみたり、削ったままを入れてみたりとこれまでの経験をヒントに遊びを広げている。

友達や保育者とやりとりをしながら作ることを喜び、驚きや感動を友達や保育者に共有しようとしたり、「だいはっけん!」と発見した喜びを友達と盛り上がったっている。友達や保育者と共有したり一緒に盛り上がったすることで、「もっと、もっと」とやってみいたいことがあふれ出ている姿が見られている。

さらに、作ったものでジュースやさんごっこをしたり、捕まえたバッタやカマキリに「ごちそう」と言ってあげたりしている。



○水や砂に関わって遊ぶ。

砂場で水道から樋を使って水を引き込み、川や海を作ることを楽しんでいる。「みずがもれるけん、き(木)もってきた!」と友達や保育者に自信満々に伝えたり、「それ、ええが!」と友達の考えを受け入れたりしながら、同じイメージに向かって一緒に頑張る様子が見られている。

偶然できた穴の形を動物や昆虫に見立てたり、樋から水が漏れても「てとあし、あらえるじゃん」と新たに楽しむ方法を考えたりしている。



○園庭に集まる生き物に興味をもち、自分なりに関わる。

園庭に集まるバッタやカエルなどがいる場所に見当をつけ、友達と一緒に見つけたり捕まえたりしようとする。見つけたり捕まえたりした生き物の動きを見て気持ちを想像する姿が多く、想像したことをもとに関わり方を考えている。生き物の気持ちの捉え方は様々で、バッタが跳ねる様子を見て「おなかのすいとる!」とエノコログサを探して入れる姿もあれば、「おうち(飼育ケース)がせまいって。だから、にがしてあげる。」と逃がす姿も見られている。

友達と考えが食い違って感情がぶつかることもあるが、友達がもつ生き物に対する気持ちを聞くことで、自分と相手に考えが違ふことに気付き始めている。その時は、相手の考えを受け入れにくいこともあるが、時間が経つと「○○くんがにがすっていったから、にがしてみる。」と自分の考えに取り入れてみようとする姿も見られてきている。



子どもの姿から捉える人権感覚の育ち

○草花や石鹼を使ってジュースを作り、友達や保育者とやりとりを楽しむ。(じぶん)(ともだち)

自分の発見を楽しむだけでなく、周囲の反応を見て喜び合う姿が見られている。こうした感動や発見の共有を通して、相手の驚きや喜びを理解しようとする気持ちが育まれ、思いやりの基礎が築かれている。驚きや発見を分かち合う中で、互いに「もっとやりたい!」とやりたいことが膨らんでおり、この気持ちを友達と一緒に盛り上げることで、他者の意欲や好奇心に共感し、認め合う経験をしている。

○水や砂に関わって遊ぶ。(じぶん)(ともだち)

友達に自分の考えを受け入れてもらうことで自信がつき、自己肯定感の高まりにつながっている。また、発見や工夫を楽しみながら遊びを広げており、自分なりに取り組む嬉しさや満足感を味わっている。

○園庭に集まる生き物に興味をもち、自分なりに関わる。(しぜん)

ただ観察するだけでなく、生き物の立場に立って考えようとする中で、生き物への親しみや温かな感情が芽生えている。また友達との対話を通じて、異なる考えや感情に気付き、友達と一緒に生き物に対して、優しい心で向き合う温かな感情の芽生えも見えてきている。

ねらい	○自分から興味や関心をもって環境に関わり、友達や保育者とイメージや思いをもってやりとりする楽しさを味わう。 ○身近な秋の動植物と交わる喜びを味わい、自分なりに大切にしようとする。
内容	・遊びに必要なものや場を作り、自分のしたい遊びに繰り返し関わる。 ・自分のイメージや思いを言葉や動きで伝えたり、友達の思いに気付いたりする。 ・動植物への関わり方に意味をもたせたり、生き物の動きから気持ちを想像しようとしたりする。
【本日の保育で育てたい人権感覚】 じぶん：自分なりに取り組む満足感、それを認められることによる自己肯定感の高まり ともだち：様々な感情体験を通して思いを分かち合う喜び しぜん：動植物への温かな感情、大切にしたい気持ちをもつ	
予想される子どもの姿	☆環境構成と援助 ♡大切にしたいこと
○草花や石鹸を使って、ごちそうを作る。 ・マリーゴールドやシソの葉など組合せ方によって変わる色や香りの変化を楽しむ。 ・泡をクリームに見立て、ケーキなどのごちそうを作る。 ・自分の欲しい草花を摘みに行くなど、必要なものを自分で探そうとする。 ・イメージをもって友達や保育者とやりとりをする。 ○砂場で遊ぶ。 ・友達と川・海づくりや工事ごっこをし、砂や水を組み合わせて状態や手触りが変化することやイメージが実現に近づく面白さを感じる。 ・友達とイメージを合わせようと、思いを言葉や動作で友達に伝えながら遊ぶ。 ○身近な生き物に興味をもち、自分なりに関わる。 ・バッタやカマキリなどを見つけたり、捕まえたりする。 ・生き物の姿を見て、気持ちを想像したり、想像した気持ちを友達や保育者と共有したりする。 ・今までの経験や年長児に教えてもらったことを頼りに、生き物が喜びそうな関わり（逃がす・お家を作るなど）をしようとする。 ・自分なりに思いをもって関わり、友達の関わりにも目を向けたり、違う考えがあることに気付いたりする。 ○遊びの楽しさをクラスで共有する。 ・自分なりに言葉やものを使って、発見や驚き、楽しかったことを友達に伝えようとする。 ・友達の話聞いて、聞いてみたいことを尋ねたり、驚きに共感したり、自分もやってみたいという気持ちをもったりする。	☆保育者も一緒に遊んだり、少し距離をとって見守ったりすることで、子どもが自分なりの考えをもって遊んだり、友達とやりとりしたりできるようにする。 ☆1つの素材をきっかけに、どんな発見や驚きを感じているのか見たり会話したりしながら共感し、満足感を感じながら遊びを進めていくことができるようにしていく。 ♡今、自分が感じている楽しさも友達とならもっと楽しいと感じられるように、それぞれのよさが発揮できる雰囲気をつくっていききたいな。 ☆うまくいくことを急がず、友達と一緒に創り出す心地よさを味わうことができるように、期待感をもって見守っていく。 ♡自分の思うようにいかないことや友達との考えのズレなどがあつたときには、その葛藤に向き合う時間を大切にし、気持ちに寄り添っていききたいな。 ☆生き物の気持ちを感じ取ろうとする姿勢や自分なりに大切にしようとする過程を認めていく。様々な思いや考え、関わり方があつてよいということが、言葉や雰囲気伝わるように関わる。 ☆生き物への関わり方や大切にしようとする中で生まれた子どもの声を拾う。友達の考えや思いに関心を向けられるように保育者がつぶやいたり、会話のきっかけにつないだりしていく。 ♡これまでの経験から、興味・関心の向き方も一人一人に個性が出てきた。そこを踏まえた上で、友達とつながっていけるようにしていきたいな。 ☆友達に伝わった嬉しさや、友達の楽しかったことを感じることができた喜びを味わうことができるように、言葉をつないだり、「見える化」したりしていく。 ♡みんなで共有する楽しさやみんなで話す嬉しさを、温かい雰囲気の中で分かち合えたらいいな。明日からの遊びの期待感が高まったらいいな。
評価の観点	○子どもが、どのような場面でどんな感情体験をしていたか。また、友達と思いを分かち合い、友達のよさを感じているのはどんな瞬間で、どんな育ちがあったか。 ●保育者は、子どもの動植物への関わりをどう捉えてどう支えたか。過程を注視できていたか。

4歳児 桃組 15名(男:4女:11)

子どもの姿

○自然物や石鹸を使ったままごとを楽しむ。

石鹸を削り、水と草花と一緒に混ぜ合わせ色の付いたクリームを作ることを楽しんでいる。石鹸と水分の量を調整しながらボウルを逆さまにしても落ちないような粘度の高いクリームを作ったり色水で作ったジュースを炭酸飲料に見立てるための緩めの泡を作ったりと自分が作りたいもののイメージに合わせて工夫しながら繰り返し取り組んでいる。

友達から刺激を受け、友達と同じものを作りたいとの思いから自分なりに試しているが、上手くいくこともいかないことも経験している。何度繰り返しても上手くいかない時には友達に尋ねながら作ってみようとしている。尋ねられた方も“自分の作り方が友達にも認められた”、“友達に頼りにされている”という喜びから自信をもって必要な道具や使う素材、作り方を相手にも分かるように伝えようとしながら一緒に遊ぶ姿が見られる。



○秋の自然物を活かした製作遊び。

秋探しに五輪坊や讃甘神社など園周辺へ散歩に出かけた。それぞれの場所できれいな色の落ち葉や大きな柿の葉、大小様々などんぐりなど、自然物を思い思いに拾って園に持ち帰った。『ばけばけばはっぱ(藤本ともひこ:作・絵)』の絵本からイメージを広げ、自分が拾ってきた落ち葉やどんぐりなどの特徴を見たり考えたりしながら作っている。また、絵の具を使って描いていた秋の山に自然物を組み合わせながら表現しようとするなど発想の広がりが見られる。また、友達から自分が作った作品を認めてもらうことで、意欲が増し、繰り返し取り組む子どももいる。



○栽培物に愛着をもって世話をしながら生長を楽しみにする。

春に野菜を植えた時にも保育者と一緒に土作りの経験をしていた。今回は「できるけん、せんせいみといてよ。」と前回よりも子ども中心で友達と協力しながら栽培準備を行ったため、“自分達の力でできる”という達成感を味わった。

土作りから自分たちでできたという自信と経験から、ニンジンの種を蒔いた後も、愛着をもって世話をするようになってきた。戸外遊び中にニンジンの様子を見に行くと2種類の芽(ニンジンと草)が出ていることに気が付き友達や保育者を呼んできて違いを伝えようとしたり、どちらかが草だと考えて相談しながら抜こうとしたりしている。また、水やりの際には「ニンジンさんものどがかわくけん、いっぱいおみずあげんといけんあ。」と植物の気持ちを想像しながら大切に育てようとする姿も見られる。



子どもの姿から捉える人権感覚の育ち

○自然物や石鹸を使ったままごとを楽しむ。(ともだち)

友達と一緒に遊ぶ中で遊びがより楽しくなる経験を重ね、友達のよさに気付き、“一緒にしたい”という思いが強くなっている。また、友達と関わる中で様々な考え方や思いがあることに気付くきっかけにもなっている。

○秋の自然物を活かした製作遊び(じぶん)

自分が作ったものを友達から認められたり、頼りにされたりする経験が自己肯定感の高まりにつながっている。また、“もっとしたい”という意欲や充実感にもつながっている。

○栽培物に愛着をもって世話をしながら生長を楽しみにする。(しぜん)

これまでの栽培経験の積み重ねもあるが、土作りから自分たちでしたという経験は今まで以上に積極的に世話をしようとする姿につながっている。植物に対しても「のどが渇いちゃいけんけん」と言いながら水やりをする姿からは、親しみをもち大切に世話をしたいという温かな感情の芽生えが見られる。

ねらい	○友達と思いやイメージを伝え合う中で、多様な考え方に触れ一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ○身近な栽培物に親しみ、生長を実感し喜ぶ。
内容	・友達に認められたり受け入れられたりすることを喜び、一緒に活動しようとする。 ・友達のしていることに興味をもち、一緒に遊んだり、自分の遊びに取り入れたりする。 ・栽培物の変化や生長に関心を寄せ、大切に世話をしようとする。
【本日の保育で育てたい人権感覚】 じぶん：自分のしていることや考えを認められたり、教えてほしいと頼りにされたりすることにより、自己肯定感を高める ともだち：友達と思いを出し合う中で、相手の思いやよさに気付き一緒に過ごすことを喜び しぜん：栽培物を大切に世話をしたいと思う温かな感情をもつ	
予想される子どもの姿	☆環境構成と援助 ♡大切にしたいこと
○自然物や石鹸を使ったままごとを楽しむ。 ・友達の姿から自分も作りたいと意欲をもち、友達に尋ねたり、自分なりに考えたりしようとする。 ・また、友達に興味をもってもらうことを喜ぶ。 ・草花を使って色水作りをする中で、思い通りの色が出来る喜びや、予想外の色になる偶然の発見を面白がる。 ・石鹸の量や水分量・草花の量などを工夫して粘土作りや団子作りを繰り返し取り組んでいる。 ・時に友達の思いが強すぎるあまり、自分の思いと折り合いがつけられなくなり、いざこざになることもある。 ○秋の自然物を活かした製作遊び。 ・葉っぱやどんぐりなどの大きさや色、形にそれぞれ特徴があることに気付き、特徴を活かして製作しようとする。 ・自分がイメージして作ったものを友達に認めてもらえることを喜び、さらに工夫しながら次も作ってみようとする。 ・友達のよいアイデアや面白いアイデアから影響を受け、自分もその方法を取り入れようとする。 ○栽培物に愛着をもって世話をしながら生長を楽しむにする。 ・ニンジンの芽が大きくなっていく様子に喜び、水やりをしようとする。また、チューリップの芽がいつ出るのか楽しみにしながら観察したり水やりをしたりする。 ・自分たちの担当しているヒヤシンスと他のグループのヒヤシンスの生長には違いがあるのかを楽しむに観察する。 ○おはなしタイムをする。 ・自分が発見した喜びを、友達に知らせたいと思い、自分の言葉で伝えたり遊んだものを紹介したりする。 ・友達の話を聞いて、次は自分もしてみたいと期待感をもつ。	☆子どもの心の動きに寄り添い、状況に応じた関わりをもつことで子ども同士をつないだり、意欲を引き出したりする。 ☆友達との思いが異なってきたときに、心を揺らしながらもどうしようかと考えるようになってきている。自分なりに折り合いをつけようとしている姿を受け止めたり、子ども同士で話し合う時間を保障したりする。 ♡保育者が肯定的に遊びを捉えることで、認められた満足感から友達の素敵なアイデアや良さにも気付いていってほしいな。 ☆お互いが製作する姿を見えやすくすることで、友達の作品に興味をもたせ、作り方を尋ねたり子ども同士で認め合えたりできるようにする。 ☆子どもの思いを丁寧に聞き取りながら、一緒に必要な素材を探したり作り方を考えたりすることで、イメージしたものを作れる喜びや工夫する面白さを味わえるようにする。 ♡子どもの自由な発想や工夫を具体的に認め、自信をもって意欲的に楽しんでほしいな。 ☆一緒に水やりをしたり、草抜きをしたりしながら、子どもが気付いた発見や変化を受け止める。また、他児にも知らせることで、発見や変化を共有していくようにする。 ☆栽培物の変化や生長のどの過程に興味や関心を寄せて関わっているのか、子どもと会話しながら感じ取り、栽培物に関わる姿に寄り添っていく。 ♡自発的に世話をしようとする姿を認めることで、大切にしたい気持ちが増していくといいな。 ☆自分の思いを伝えようとする意欲を受け止め、安心して伝えることができるようにする。 ☆友達の思いを聞き、自分の体験と重ね合わせながら対話をしようとする姿を支えていく。 ♡自分の思いを安心して伝えることができる雰囲気や保育者の温かなまなざしを大切にしていきたいな。
評価の観点	○思いや考えを伝え合い、多様な考えに触れる中で友達と一緒に遊びが広がっていく面白さを味わうことができたか。また、子どもは、自分の思いを保育者に受け入れてもらえる喜びを感じていたか。 ●保育者は、子どもの栽培物に対する思いや気付きなど、その子ならではの発想や発言を大切に受け止め、子どもの意欲や感性を高める関わりができていたか。

5歳児 白組 15名(男:8 女:7)

子どもの姿

○身近な秋の自然物に興味をもち、自然物と素材を組み合わせて遊ぶ。

五輪坊や地域へ散歩に行き、沢山の木の実や色付いた葉っぱなどに興味をもったことから「どんぐりほいくえん つくってみようや」と作りたいものをイメージしていた子どもたちである。昨年の年長児が、グルーガンを使っていたことを覚えており、使い方が分かった自分なりに作りたいものをイメージし、どんぐりや落ち葉、松ぼっくり、木の枝などを使い作ることを楽しんでいる。

イメージしたものや作りたいものを作っている過程の中で、友達が作る様子に刺激を受け、教えてもらったり、ヒントを得て作ったりしている。作り方の方法が分かると、更に「もっとつくってみたい」と思い、表現豊かに作っている。作ったものは、部屋や廊下、玄関など飾りたいと思ったところに飾り、人に見てもらうことを喜んでいる。周囲の人に、自分の表現を受け入れられたり、認められたりすることで充実感を味わっている。



○友達と一緒に「やたいづくり」を楽しむ。

地域の大原秋祭りが近づく10月の中旬頃。「よいやさしようや!」と友達を誘って楽しむ様子が見られた。遊戯室には、昨年の年長児が作った「やたい」があり、それを担いで喜んでいましたが、今年の大原祭りが終わると、祭りに参加した子どもたちから「やたいを、つくってみたい!」という声が上がった。必要な材料や素材を自分たちで調達したり、保育者に必要な材料を聞いたりしながら、作る様子が見られている。

昨年度も、年長児の様子に刺激され作っていたが、「すぐこわれたんよ」と失敗経験を覚えていた。箱の積み重ねや、やたいの特徴を捉えながら作ったり、作り替えたりしている。友達と協力しながら作る過程を楽しんでおり、友達とのいざこざもあるが、友達は、自分とは違う思いをもっていることに気付き、折り合いを付けながら、友達との関係性を深め、やたい作りを楽しんでいる。



○飼育しているバツやウサギと関わり、親しみの気持ちをもつ。

園庭のバツを捕まえ、「たべられたらいけん!」と「オンブバツ」「トノサマバツ」など、種類に分けて飼育している。また、図鑑で飼育方法を調べて最適な環境を作り、飼育することを楽しむ中で、時には命の終わりにも出会い「なんでじゃろ?」と原因を自分なりに考え、命と向き合う姿がある。

10月中旬に、園に来た2匹のウサギを可愛がる姿がある。まだ、生後2カ月の小さなウサギであるため、白組の部屋で飼育しており、登園する時や給食後、降園時には、「おなかすいてるじゃろ?」「うんちいっぱいじゃな。きれいにしようや」とウサギの気持ちに思いを寄せて、大切にしたい思いから進んで世話をする姿が見られる。



子どもの姿から捉える人権感覚の育ち

○身近な秋の自然物に興味をもち、自然物と素材を組み合わせて遊ぶ。(じぶん)

自分で考えたことや、やってみたいことに、興味や関心をもち生き生きと取り組む姿が見られる。自分の表現を多様な人から認められることで、充実感や満足感を味わう経験は自己肯定感の高まりに繋がっている。そして、更に「もっとつくってみたい」という思いから、自己発揮しようとする姿が見られる。

○友達と一緒に「やたいづくり」を楽しむ。(ともだち)

協同的な遊びを通して、互いの良さや考えなどに気付き関係性を深めている。友達と試行錯誤しながら作る過程の中で、楽しいだけではなく、共通の目的があるがゆえに、いざこざもあるが、自分の気持ちや考えとは異なった思いを受け入れようとしたりする姿は、思いやりの気持ちに繋がっている。

○飼育しているバツやウサギと関わることを楽しむ。(しぜん)

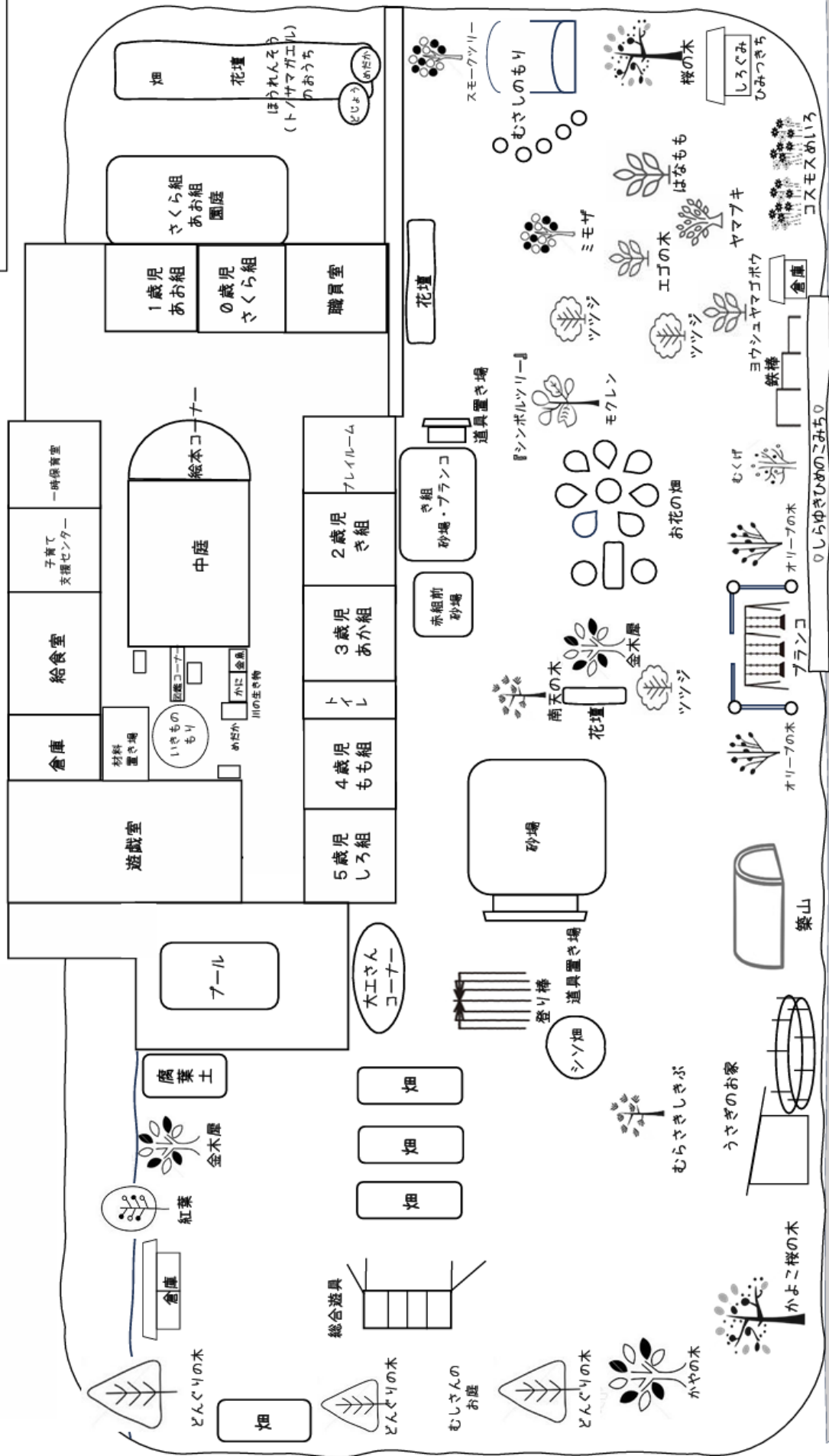
飼育しているウサギやバツなど、心動かされた小動物の生態や特徴に興味をもち、関わりを積み重ねる中で、命の尊さに気付き大切に扱おうとしている。生き物への温かな感情が育まれている。

ねらい	○身近な動植物に親しみ、動植物を通して友達と心通わし、考えたり、試したりすることを楽しむ。 ○互いのよさを生かし、一緒に活動する楽しさを味わう。
内容	・身近な動植物の生命の不思議さや尊さに気づき、接し方を考え、大切にに関わる。 ・友達と一緒に繰り返し試しながら、それぞれのアイデアや気付いたことを取り入れていくことで、やりたいことを実現しようとする。 ・様々な友達と関わる中で、考えの違いやよさに気づき、友達の考えを取り入れて遊ぶ。
【本日の保育で育てたい人権感覚】 じぶん：自分なりの考えや表現を様々な人に認められ、受容されることによる自己肯定感の高まり ともだち：見方や考え方、多様性に気づき、互いに認め合おうとする思いやりの気持ち しぜん：動植物の命と向き合い、温かな感情で命を大切にしようとする行動する	
予想される子どもの姿	☆環境構成と援助 ♡大切にしたいこと
○秋の植物を使い、レストランごっこをする。 ・園内で栽培している野菜や園周辺の自然物（どんぐり・葛のツルなど）で、レストランごっこを楽しみ、切ったり、素材と組み合わせたりし工夫して遊ぶ。 ・レストランごっこで、お客様に来てもらうことを喜び、友達や異年齢とやりとりしながら遊ぶ。 ○秋の自然物を使い、製作遊びをする。 ・木の実や落ち葉、木の枝などから作りたいものをイメージし、必要な道具を使って表現豊かに作る。 ・特徴を生かし、工夫しながら出来上がっていく面白さや楽しさを感じ、作ろうとする。 ○友達と一緒に協力しながらやりたい作りをする。 ・どのようにしたら上手くいくか、自分なりに考え様々な材料や道具を使って作る。 ・友達と一緒にやたいの完成に向けて、互いの考えを合わせ、試行錯誤しながら作る。 ・やたいを作り、担いで園内を練り歩く。 ・壊れた時には、原因を友達と一緒に探り再構成して作る。 ○生き物への関心を高め、関わったり飼育したりする。 ・生き物の気持ちを想像したり、最適な飼育方法や接し方を考えたりする。 ・友達の考えに触れ、考えを受け入れたり、受け入れられたりし、互いのよさを生かしながら生き物と関わる。	☆こんな風に遊びが広がるのではないかと、気付くのではないかと予想しながら、様々な植物や素材を環境の中に準備することで、その特徴を生かしながら、レストランのメニューに見立てられるようにする。 ♡植物の特徴を生かして遊ぶ面白さを感じてほしいな。 ♡友達と一緒に遊ぶ中で、アイデアを認めたり、受容されたりすることで自己肯定感を高めてほしいな。 ☆子どもたちの思いが実現できるように、必要と感じた材料（木材・木の枝・タイルなど）を一緒に用意したり、考えたりする。 ♡作りたいもののイメージに近づけようと試行錯誤している様子を見守っていきいたいな。 ♡友達の表現方法を認め合い、温かい関係性をもってほしいな。 ☆様々な大きさや硬さなどの材料を用意することで、特徴や特性に気づき、それを生かして考えたり予想したりして作れるようにする。 ☆失敗や課題は、友達と一緒に考えたり試行錯誤したりしながら、前向きに取り組む機会を設けることで、上手くいかない時こそ“いい失敗”と捉えられるようにする。 ♡友達のアイデアを受け入れたり、組み合わせたりして工夫していく面白さを感じてほしいな。 ☆子ども同士が話し合う機会を設け、身近な生き物の気持ちを考えようとする声掛けをすることで、子ども達が意見交流しやすい環境をつくる。 ♡友達の考えや自分の考えを合わせ、更によりよくしようとしてほしいな。 ♡可愛がるだけでなく、命の尊さや、どうしたらいのちを繋ぐことができるか、友達の考えにも触れ、互いが認め合おうとする思いやりの気持ちをもちたいな。
【*】特別な配慮を要する子どもについて (○：ねらい・内容) ○友達の様子に興味をもち、楽しみや喜びを感じる。 ・五感を感じる遊びや、感情体験ができる遊びをしたりする。	☆担任や担任以外の人の見守りや受容、温かい関わりのもと、生き生きと活動できるようにする。 ♡「たのしいな」「ともだちといっしょがいいな」と感じられるようにしたいな。
評価の観点	○子どもは、動植物を通して友達と関わる中で、互いの考えや思い、よさに気づき、認め合いながら嬉しさや喜びを感じ、自己肯定感を高めることができていたか。 ●保育者は、多様な子どもたちの考えや心を寄せる事柄に共感し、受け入れ、一人一人が生き生きと活動できる関わりができていたか。

「子どもと自然をつなぐ環境」

地域と繋がり、地域の良さを
知り、五感を使って遊び込む。
地域と共に育ち合う子どもを
目指して。

恵まれた環境が



夏には、川遊びを楽しんでいます。

三宮